

議案第6号

平成30年度公益財団法人富山市ファミリーパーク公社

事業計画について

定款第7条の規定により、平成30年度公益財団法人富山市ファミリーパーク公社事業計画について理事会の承認を求める。

平成30年3月23日提出

公益財団法人富山市ファミリーパーク公社

理 事 長 中 村 純

平成 30 年度 事業計画

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

I 基本方針

「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、呉羽丘陵の豊かな自然の中で、日本産動物の飼育展示や希少野生動物の保護増殖、在来家畜の保存を行い、多様な生物の世界やいのちのつながりを伝えるとともに、園内の里山を活用・整備し、健康増進や癒しの場を提供しながら市民とともに新しい里山づくりに取り組む。また、近隣の地域住民や各施設・団体と連携して無料区域から呉羽丘陵一帯につながる事業を充実させ、呉羽丘陵にある里山の魅力を園内外に向け情報発信していく拠点としての役割を担いながら、地域に根差した園づくりを進めていく。あわせて県内外からの利用者に向けて誘客事業の充実を図り新規顧客の獲得と利用者の拡大を図る。

さらに、「ファミリーパーク新整備計画」に基づく整備および「富山市環境未来都市計画」に関する取組みに引続き参画することにより、市民がより自然に親しめる市民本位の事業を計画し、コンパクトな街づくりと連動した、市民の健康寿命の延長に寄与する魅力あふれる施設を目指し、運営に取り組む。

II 事業計画

- 1 「富山市ファミリーパーク新整備計画」及び「富山市環境未来都市計画」への継続参画
 - (1) ファミリーパーク新整備計画の整備状況を見ながら富山市と協議し、今後の「いのち体験エリア」の構想や整備についての具体的な検討を進めるとともに、「動物衛生管理エリア」の新しい動物病院の建設計画に参画する。
 - (2) 「ファミリーパーク新整備計画」に基づいて整備された無料区域を活用し、無料区域から呉羽丘陵全体へと広がる、里山と自然等を活用した各種事業の企画立案、運営に努める。
 - (3) 有料・無料区域の各種事業や、呉羽丘陵全体と結びついた各種事業について、企画運営、コーディネート、プロデュースできるネットワークやシステム作りを推進する。

- (4) 呉羽丘陵を舞台にした「環境未来都市計画」に関する取組（フィールドミュージアム形成プロジェクト）に引き続き参画し、富山市や各団体、企業、大学等と連携を図りながら事業を推進する。

2 ライチョウ基金

- (1) ライチョウの保全事業を目的として設立した基金に寄せられた寄付金を有効に活用し、飼育繁殖技術の確立や普及啓発を推進する。
- (2) 基金への寄付を引き続き、広く市民・県民・国民に募っていく。

3 公益目的事業

(1) 施設管理事業

- ① 快適な園内環境を来園者に提供するために、建物及び設備等施設の維持管理を行う。
- ② 施設の安全対策の徹底や老朽化に伴う改修を計画的に行い、利用者の利便性の向上を図る。
- ③ 入園料の徴収受託事務を行う。

(2) 動物管理事業

いのちの大切さや、人と動物の関わりや文化、生物の多様性を伝えることを目的に、動物の展示及び教育啓発に努める。また、国内外の動物園や研究施設、関係省庁等と連携し、動物の収集や日本及び外国産の希少野生動物の繁殖技術の確立に取り組む。特に、環境省のライチョウ保護増殖事業計画に基づくニホンライチョウの飼育繁殖にも継続して取り組むとともに、「ライチョウ基金」を活用したライチョウの保全に関わる様々な事業を推進する。

また、富山市が進めていくファミリーパーク新整備計画事業における、「いのち体験村」（森といきもの体験ゾーン）での具体的な構想の検討を進め、そこで実施するプログラム作成および動物衛生管理エリアの更新、その他の動物展示ゾーンの事業計画や整備計画について参画していく。

① 飼育展示事業

動物の種の特徴となる形態や行動の展示を充実させることで、生物の多様性について伝えるとともに、親子の展示などを通していのちの大切さを伝える。また、里山生態園の展示の充実に努め、野生動物と人と里山環境との関係について伝える。さらに、日本在来家畜の展示を通して、日本人との関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

また、これらの展示を充実・発展させるためにコレクションプランに基づいた動物の収集を進める。

② 繁殖研究事業

コレクションプランに基づいて動物種ごとの繁殖に取り組む。特に国内外の希少野生動物について、他の国内飼育園館や関係機関等と連携して、繁殖研究に取り組み、飼育繁殖技術を蓄積し、保護増殖に努める。

③ 教育啓発事業

動物を活用した各種ガイドや入園者サービスにつながるイベント、実習・研修などの体験プログラムを充実させ、動物自体から動物をとりまく環境まで幅広い情報を正しく、楽しく伝える。

こどもどうぶつえんでは動物とのふれあいを通し、いのちの大切さや生物の多様性を実感できる体験活動の拡充を図る。他に、新たなガイドの開始や、既存のガイドのさらなる充実を図る。具体的には在来家畜などの動物とのふれあいを通した解説を行う。

また、新たに雨天時の遠足団体を対象とした、動物解説プログラムを開発する。

これらの教育啓発事業を発展させ、いのち体験エリアの「いのち体験村」での教育プログラムの検討を始める。

④ 調査研究事業によって得られた成果や情報を展示や解説活動、出版、各種研究会発表などで発信する。

⑤ 在来馬保全活用事業

木曾馬や野間馬、対州馬など、在来馬の展示や乗馬体験事業の展開と充実を図り、日本人と在来馬の関わりや文化を伝え、その普及を図る。また、いのち体験エリアの構想における事業展開を検討する。さらに、これらの事業に適した他の在来馬の新規導入を検討し、在来馬の保存に努める。

⑥ ライチョウ保護増殖事業

環境省のライチョウ保護増殖事業計画の生息域外保全実施計画、及び（公社）日本動物園水族館協会のライチョウ保全計画に基づいて飼育・繁殖に取り組む、科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。さらに、ニホンライチョウとその生息環境の現状を伝え、保全の大切さを普及啓発する。

また、「ライチョウ基金」を有効に活用し、ライチョウの保護増殖の推進に努める。

⑦ ホクリクサンショウウオ域外保全事業

絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオの飼育・繁殖に取り組む、園内を中心とした呉羽丘陵での域内保全および域外保全に向けた科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。また、その生態展示を通して、ホクリクサンショウウオの生息環境の現状を伝え、里山環境の保全の大切さの普及啓発に努める。

⑧ 飼育繁殖技術の継承推進事業

飼育繁殖技術の継承を図るため、人材育成とその組織作りに取り組む。

(3) 地域事業

地域の施設や住民と連携し、呉羽丘陵に市民が気軽に訪れることができる森の賑わいづくりに取り組む。また、地域の自然や文化などの魅力を引き出し、「時代にあった新しい里山再生のモデル」の創出を目指す。さらに、ファミリーパーク新整備計画に基づき、無料区域が呉羽丘陵の活性化や周辺の各施設等の回遊性を向上させる拠点としての役割を果たすためその有効活用を図る。

① 経営企画事業

入園者サービスのさらなる向上を目指すとともに、公益財団法人のあり方としての、事業の企画運営、組織経営や新整備計画に基づく、園内の有料・無料区域の運用及び今後の組織体制について検討する。また、「環境未来都市」に関する取組などについて検討を進める。

② 広報・広告事業

ファミリーパークや地域からの情報を集約し、ホームページ等を活用した情報提供の充実に努める。また、SNS（ソーシャルネットワーキングサービスの略、フェイスブック等）などを活用した広報活動を引き続き充実させる。

③ 悠久の森事業

悠久の森実行委員会と関係団体が連携し開催する、主要事業である「フェスタ」「フォーラム」「里山ネット」などに積極的に参画し、呉羽丘陵を広く活用した事業の推進に努める。さらに生息地での環境整備活動や小学校への出前授業などの「呉羽丘陵の生きもの保全・普及」事業においては、ファミリーパークのホクリクサンショウウオ保全プロジェクトチームが中心的に関わり、取り組む。また、呉羽丘陵周辺の住民、各施設・団体等の連携強化を図り、呉羽丘陵の活性化を推進する。

④ 輝けいのちの集い事業

輝けいのち協議会と連携し、いのちの尊さを普及啓発する事業「輝けいのちの集い」を実施し、小中学校、高等学校などの児童・生徒、PTA関係者などとの連携を深め、さらなる発展を図る。

⑤ 地域連携事業

富山市や県内の大学、各種団体など産学官民との連携を図り、そのネットワークを活用した健康、スポーツ、文化、自然などの行事や、教育活動を独自に企画実施することにより、幅広い年齢層を対象にファミリーパー

クや呉羽丘陵の利用を促進し、持続可能な地域社会づくりにつなげる。

⑥ ボランティア活動支援事業

NPO法人きんたろう倶楽部や市民いきものメイト、企業、奉仕団体等による園内での整備活動などのボランティア活動を支援するとともに、新たな活動団体の園内誘致に努める。

⑦ 活性化事業

ゴールデンウィークや夏休みなど、季節に応じたイベントを企画・実施するとともに、無料区域の活用を図りながら収益事業の拡充を図る。また富山市や公共機関、学校、企業団体などが主催するイベントに協力する。

(4) 里山事業

園内及び呉羽丘陵の自然を活用し、自然環境や地域の歴史について市民が体験を通して楽しみながら里山を知ることができる事業を行う。また、園内の自然環境の保全を図り、里山に生息する野生動植物等の生物多様性に関する啓発活動を実施する。

園内の太陽光、風力や製炭装置等を使って再生可能エネルギーのあり方について普及・啓発するとともに、環境未来都市に関わる環境教育の取り組みに参画する。

① 里山活用事業

ムササビや野鳥の生態を紹介する巣箱カメラや、里山の昆虫など園内の動植物等の観察場所を充実させるとともに、季節等の状況に合わせた自然観察会や体験教室を実施する。

② 里山保全管理・整備研究事業

ホクリクサンショウウオやホタルの生息域内保全を各事業と連携して進める。また、里山を代表する希少な動植物など、多様な生き物がすむ環境を保全整備し研究する事業の充実を図る。

③ 呉羽丘陵活用事業

無料エリアを呉羽丘陵の入口拠点として、丘陵の情報発信や丘陵散策路の回遊性を推進する事業を実施する。そのために、きんたろう倶楽部はじめとする呉羽丘陵周辺の施設・団体などと包括協定を締結し、呉羽丘陵を活用した健康増進や、癒しの場を提供する事業を実施する。

(5) 呉羽丘陵フィールドミュージアム推進事業

前述 II-1-(4) 参照

(6) ライチョウ基金事業

前述 II-2 参照

4 収益事業等

(1) 収益事業

施設内の利便性を向上させ、食や賑わいを創出する事業を推進する。

① 収益事業の充実

- ・無料エリアにおける収益事業の充実を図る。

② 売店・食堂事業

- ・季節やイベントに合わせた出店や移動販売を行う。
- ・ファミリーパークのオリジナル商品の開発に努める。

③ ホースライド事業

- ・引き馬による乗馬、乗馬教室、障害者乗馬会などの乗馬体験や馬のエサやり体験などを行う。
- ・セラピー効果を目的とした乗馬体験や講習会を企画するとともに、学校教育団体を対象としたホースセラピーに関わる体験プログラムを開発し、実施する。

(2) その他の事業

① 遊園地維持管理運行事業

- ・施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。
- ・各種法定検査を実施しながら、運行の安全性の維持を図るとともに、今後の運営について市と協議する。
- ・遊具使用料の徴収受託事務を行う。

5 法人会計

(1) 公益財団法人として適正な運営に努める。

(2) 公社の財務会計及び予算・決算等の経理を行う。

(3) 指定管理者としての指定申請事項に基づく法令等の遵守。

6 ファミリーパーク施設使用料徴収受託事業

入園見込数	内		訳	
	有料エリア	有料入園者数		75,430 人
		無料入園者数		161,470 人
	無料エリア	入園者数		93,100 人
		総入園者数		330,000 人
入 園 料	42,236千円	個人大人	500 円 ×	61,600 人 = 30,800,000 円
		団体大人	400 円 ×	8,100 人 = 3,240,000 円
		個人70歳以上	250 円 ×	300 人 = 75,000 円
		共通パスポート（販売）		5,400 人 8,100,000 円
		3日間共通パスポート		30 人 21,000 円
遊具使用料	24,430千円	アニマルコースター等	200 円 ×	98,900 回 = 19,780,000 円
		電気周遊車	100 円 ×	20,500 回 = 2,050,000 円
		ボート	400 円 ×	6,500 回 = 2,600,000 円
合 計	66,666千円			